

科目名	授業時数	教科書名	副教材名
高校1年 総合進学・SG 化学基礎	2	新編 化学基礎 (東京書籍)	ニューステップアップ 化学基礎 (Libry)

1. 授業のねらい

- ①理科の中でも特に化学分野に関する基礎的な知識を身につけ、科学的思考法を活用する。
- ②文系・理系の進路選択ができるような基礎知識を身につける。

2. 授業のすすめ方

- ①授業では説明をしっかりと聞き、疑問点等は質問をすること。
- ②黒板に書かれた内容をノートにていねいに写し取ること。
黒板に書かれていなくても先生の話した内容をノートにメモしておくことで、家庭学習の助けになる。
- ③配付されたプリント等は、ノートに貼ったりファイルにとじたりして、いつでも見ることができるようにしておくこと。

3. 学習上の留意点

家庭学習の習慣を確立できるかどうかで、身につけられる学習内容に大きな開きが生じる。この一年間を有意義なものにするために4月から家庭学習を行うこと。勉強方法については、友人や先生のアドバイスをもとに自分なりに工夫して試行錯誤を繰り返して身につけること。

- ①授業があったその日のうちにノートを見返して復習を行う。その際、用語・概念などといった重要事項についてはまとめ用ノートに転記するなど、自分なりの工夫を行うこと。
- ②問題集を考査直前に1回解くというのでは、学力の定着は期待できない。授業の進行にそって、問題集やClassi等を用いて解ける問題から解いてくようにする。特に間違えた問題は自分の弱点であるので、印などをつけて考査までに解けるようにすること。何度取り組んでも分からない問題については、先生に質問をすること。
- ③考査対策
授業を聞き家庭学習を行っていれば、考査対策は半分以上終わったといえる。
最後のまとめとして、ノートの見直し、解けなかった問題に再度取り組んで欲しい。
- ④進路選択
物理・化学・生物・地学分野に関する進路情報を集め、研究を進めて欲しい。

4. 副教材・参考文献

- ・ニューステップアップ化学基礎 (Libry)

5. 評価の視点・テスト・課題等

- ①定期考査
各回100点満点の問題で、1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末の5回実施する。
定期考査は試験範囲に関する問題を幅広く出題する。問題集を日ごろから解くようにしてほしい。
- ②平常点
問題集ノートや授業用ノート、課題の提出がある。
その他、宿題・小テスト等を加味して平常点をつける。
平常点は一学期(20点)、二学期(20点)、三学期(10点)で、年間で計50点になる。

定期考査の点数と平常点の合計で、年間の評定を評価する。

6. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	1 編 物質の成り立ち 1 章 物質の探求 1 物質の性質と分離 溶解度と溶解度曲線 2 物質の成分	授業用ノートおよび問題集の提出，授業への取り組み等で平常点の評価を行う。	原子モデルで諸現象を説明できる。 原子の構造を理解し，原子番号 20 までの電子配置が書ける。
	5	2 章 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 電子配置と周期表		
	6	1 学期中間考査 3 章 物質と化学結合 1 イオンとイオン結合 2 金属と金属結合 結晶格子 3 分子と共有結合 電気陰性度・極性		
	7	2 編 物質の変化 1 章 物質と化学変化 1 原子量・分子量と物質量 原子量・分子量・式量 物質量 1 学期期末定期考査 夏休みの課題		
二 学 期	9	溶液の濃度 2 化学変化の量的関係 化学反応式	夏休みの課題，授業用ノートおよび問題集ノートの提出，授業への取り組み等で平常点の評価を行う。	化学変化を化学反応式で示すことができる。 反応式と物質量の計算ができるようになる。 酸・塩基の基礎知識を身につけ，中和に関する計算ができるようになる。
	10	化学反応式と量的関係 化学の基本法則 2 学期中間考査 2 章 酸と塩基 1 酸と塩基		
	11	2 水素イオン濃度と pH 3 中和反応と塩の生成 4 中和反応の量的関係と中和滴定		
	12	3 章 酸化と還元 1 酸化と還元 酸化・還元と酸素，水素，電子の授受，酸化数 2 学期期末考査 冬休みの課題		
三 学 期	1	3 章 酸化と還元 1 酸化と還元 酸化剤・還元剤 酸化還元滴定	冬休みの課題，授業用ノートおよび問題集ノートの提出，授業への取り組み等で平常点の評価を行う。	酸化還元反応に関する計算ができるようになる。 電池・電気分解の基礎知識を身につけ，計算ができるようになる。
	2	2 酸化還元反応の利用 電池 電気分解		
	3	3 学期期末考査		